



2020/05/23 除伐直後

除伐直後の見通しの良くなった河原に子供の姿が。



2020/10/18 除伐前

5ヵ月後には草木が茂り見通しがなくなる。



2020/10/18 除伐後

中央の柳の枝を払った後



約5ヵ月で2mも伸びた柳

5ヵ月で2mも伸びた棚木の枝



2020/10/18 モロコ釣れた

潜水橋から釣り上げた 10cm 程度のもろこ



2020/10/20 遠足? 仁川で遊ぶ園児

少し離れた幼稚園から遠足に来ていた

豊水期間中で河川工事は止まったままで自然の成り行き任せで4ヵ月経過。この間に台風・豪雨など河川施設に大きな影響を及ぼす自然現象はなく平穏に経過したとはいえ、7月初めの長雨で仁川合流点付近の砂州の形を変えるほどの出水があり、仁川河口落差工下に堆積していた土砂が流され、潜水橋下流側に堆積し流れを変えてしまった。

5月下旬に潜水橋下流側で大規模な除伐・除草が行われ、これまで見えなかった河原が見えるようになり、お父さん、お母さんに伴われ幼児が河原で遊ぶ姿が見られるようになった。草が伸び始めると虫獲り少年の姿が見られるようになった。除伐後一月足らずで柳の切り株から芽が吹き出し草が伸び始め、気がついた時にはも河原が見えなくなるくらい繁茂してしまい子供たちを河原に寄せ付けない位に雑草だらけになった。気がかりなのは、ミズヒマワリが繁茂し、これまで余り見かけなかったセイタカアワダチソウの黄色い花が増えてきた。除草でセイタカアワダチソウの生育環境が良くなったのかもしれない。大規模な除伐・除草で変化した環境を巧みに活かして特定外来種が棲息域を広げたのかもしれない。自然環境のちょっとした変化が生物環境に直接影響を及ぼした事例ではないかと思う。色々議論はあるだろうが、筆者は幼稚園児が遠足先に選んでくれるような川が「いい川」だと信じて疑わない。



